

チングとハイスピードなパルスホールド回路を必要とするディグリッチタイプの I/V 変換ではなく、極素直な連続系の I/V 変換があるだけの非常にシンプルなものとなっており、理想の DA プロセッサにより近づきました。

DAC-X1t では I/V 変換後には FET と真空管で構成した送り出しバッファを使用しておりますが、その理由はオーディオ伝送ケーブルから逆流してくる外部からの EMI がディグリッチ I/V 変換動作に悪影響を及ぼすのを防ぐことにあります。

それに対して DAC-TALENT は前記の様にパルススイッチングに伴うディグリッチャーがありませんので、I/V 変換アンプが即ち送り出しアンプとなります。

従ってこのディグリッチャーレス I/V 変換アンプに要求されることは、如何に正確にパルスをヒステリシスフリーな特性でセトリングするかという点に集約されます。

この I/V 変換アンプには、AD 社のコンプリメンタリー・バイポーラ・プロセスで作られた非常にシンプルな構成のアンプを採用しました。

尚、より高度な I/V 変換をお望みの方に向けて、出力電圧が 0.2 V に低下しますが、パッシブレジスタのみで I/V 変換を行う方式に変更が可能となります。

特長

- ☆ ノンゼロクロス歪 SIGN・MAGNITUDE 方式 20 bit D/A プロセッサ
- ☆ ディグリッチャーレス I/V 変換回路
- ☆ デジタル・プロセスセクションと アナログ・プロセスセクション間をオプト・アイソレーターにより分離
- ☆ デジタル・ドメインでのディエンファシス
- ☆ ダブル・PLL クロック・ジェネレーターによるジッターフリー
- ☆ アブソリュート位相転換スイッチ
- ☆ 1-POLE ローパスフィルター
- ☆ アナログ段回路変更可能なサーキットレイアウト

規格

形式	3 サンプル周波数対応 D/A プロセッサ
入力フォーマット	EIA 標準フォーマット
入力コネクタ	OPTICAL × 1、COAXIAL × 1